

医学部看護学科

THE JIKEI UNIVERSITY SCHOOL OF NURSING



20周年を迎えました

看護学科は、今年で20周年を迎えました。国際化や少子高齢化社会が求める優れた看護実践者の育成と、卒業生達が築いた本学の歴史と伝統をまもりつつ、30周年に向けて新たな歴史を刻んでいきましょう。

教育理念

看護学科の教育理念は『人間の尊厳に基づいた心豊かな人間性を形成し、専門的・社会的要請に応じられる看護の基礎的能力を養い、看護学の発展に貢献できる創造性豊かな資質の高い看護実践者を育成する。』と定められています。すなわち「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神に基づき、看護専門職に必要な優れた知識や技能だけではなく、病める人々の心に寄り添える豊かな感性と医療の倫理的・道徳的側面に対処できる理性を有する優れた看護の実践者を育てることです。

看護学科長からのメッセージ

優れた看護実践者をめざして



櫻井 美代子
看護学科長

看護学科のある国領キャンパスには、開学時に植えられた梅檀の木が、校舎の4階に達するまで大きく育ち、毎年、淡紫色の花と芳しい香りで学生や教職員の心を癒してくれます。このような環境の中で看護学を学ぼうとしている皆さんに、本学がめざす看護教育についてメッセージをお届けします。

東京慈恵会医科大学は、日本で最初に看護師の教育を始めた大学です。本学の学祖・高木兼寛は、イギリスに留学した際に、セント・トーマス病院ナイチンゲール病棟で看護師が医師と連携・協力しながら患者中心の看護を行っている場面を見て、看護師教育の重要性を実感するとともに「医師と看護婦（師）は車の両輪の如し」という言葉を残されています。そしてこの考えを実現するために、明治18年（1885）に我が国最初の看護婦養成所を開設しました。本学が、平成4年（1992）に看護学部ではなく医学部の中に看護学科を開設した背景には、この学祖の考えが反映されています。

医療の現場において医師と看護師が「車の両輪」であるためには、学生時代から共に学び共に考える場を体験することによって相互理解を深めること、そして科学的思考に基づく看護の専門知識と倫理的価値観に基づく技能はもとより、様々な健康問題を抱えた人々を生活の視点からとらえる能力が必要です。開学20周年を迎え、在学中に医学科生と共に学んだ多くの卒業生たちは、医療の現場においてお互い良き理解者であり、良きパートナーとして質の高いチーム医療を実践していると確信しています。

本学科は、少人数教育と臨地実習での学びを重要視しています。これは、授業にグループワークや演習形式を多く取り入れることで自ら考え判断する思考力を高め、また臨地実習では学生一人ひとりの個性と能力に応じた関わりによって状況に応じた問題解決能力を高めることを目指しているからです。きめ細かい丁寧な教育は、看護の対象である人々に対しても、その人らしさを尊重した看護を実践できる看護師・保健師の育成に繋がります。

本学の建学の精神と教育理念を十分理解し、優れた看護実践者になるために必要な基礎的知識・技術を主体的かつ積極的に学ぶ姿勢と、4年間の学生生活を乗り切る強い意志をもった学生を求めています。

個性を生かした少人数制教育

本学は、人間の尊厳に基づいた心豊かな人間性を形成し、専門的・社会的要請に応じられる看護の基礎的能力を養い、看護学の発展に貢献できる創造性豊かな資質の高い看護実践者を育てる大学です。

医療に携わる専門職には、看護職以外に医師や薬剤師、栄養士、臨床検査技師など様々な職種があります。中でも保健師・看護師は、病気の予防や疾病に伴う苦痛を軽減するための専門知識・技術だけでなく、病に苦しむ人々の心に寄り添える豊かな人間性が求め

られます。このような看護実践者を育てるためには、学生一人ひとりの個性と能力に応じた丁寧な教育が必要です。本学は、定員40名に対して専任教員が34名という環境の中で少人数制の教育を行っており、看護学の基礎を培う学部教育の充実化に努めています。例えば看護実習室や臨床実技トレーニングセンターにおける技術の訓練は、学生全員がモデル人形を使い納得するまで練習ができる環境です。また臨地実習では、学生5～6人のグループに対して本学の教員が実習施設のスタッフとともに直接指導にあたっています。

看護学教育では、時代の流れに応じてカリキュラムが改正されています。平成21年度の改正では、在宅看護学の講義や実習時間数が大幅に増えました。これは在院日数が短縮し、複雑な病気や障害を抱えて自宅で療養生活を送る患者さんが増えている中で、専門知識に基づく判断能力と確実な技術を有する看護師の育成が求められていることの現れです。さまざまに変化する社会的要請に応えるために本学では、専門知識・技術に加えて人のいのちを尊び、人の心を大切にする豊かな感性をもった看護職者が育つようカリキュラムを構成しています。さらに、平成23年の保健師助産師看護師学校養成規則の一部を改正する省令に基づき、平成24年度からは保健師資格は選択履修制となりますので、一部開講科目は改正される予定です。



濱中 喜代
教学委員長 小児看護学教授

優れた学習環境で看護師を目指して学ぶ皆さんをサポートします

本学は看護学教育の発祥の地であり、脈々と続く歴史のなかに培ってきた看護の精神を大切にしています。看護系の大学は200に迫る勢いで増えていますが、本学は1992年に開設されている老舗の大学です。医学部であることで、医学科の学生との共修できたり、部活動で交流できたり、また専門の医師から教授を受けやすいメリットがあります。また4つの附属病院があることで、看護師になるのに必要不可欠な実習においても、より良い学習が可能な環境にあります。社会情勢が日々

変化するなかで、看護系大学は教育カリキュラムの変更が余儀なくされていますが、本学は『看護師としての実践力と人間性を育てること』を開学以来一貫して大切にできています。さらに本学では将来に向けての自己学習能力と社会人としてのスキルを学ぶことができます。看護師を目指して学ぶ意思のある皆さん、一緒に学び合しましょう。皆さんのご入学を心からお待ちしています。

■ カリキュラム

	1年生	2年生	3年生	4年生
	医療基礎科目			
教養基礎科目	人間と生活			
	社会と生活			
	自然・情報科学			
	外国語 1	外国語 2		
看護専門基礎科目	保健医療			保健医療
	人間と健康			
看護専門科目	生活援助の基礎			
	生活援助の方法			
	援助の実践	援助の実践	生活援助の実践	
	看護の統合と実践			

■ 看護の基礎となる科目群

生活者としての人間を理解し、健康や環境を考え、豊かな人間性を育む

医療基礎科目 ● 医療基礎科目では、事例や場面についてグループワークを行い、看護学生と医学生の立場から倫理について意見交換を行い、考えの異なる人とのコミュニケーションのとり方や人間の理解などについて学習することを目的としています。

教養教育科目 ● 教養教育科目群は、人文社会科学系、自然科学系、外国語が含まれます。約20人前後のグループに編成され、課題に対するディスカッションや文献学習、プレゼンテーションを通して物事の考え方や価値観について学習することを目的としています。

看護専門基礎科目 ● 看護専門基礎科目群は、人々の心身の健康を保持・増進するために不可欠な社会環境との相互作用や医療を取り巻く制度政策を理解すると共に、健康破綻のプロセスと病気や治療について学習することを目的としています。

■ 看護専門科目群

優れた看護の実践者として、研鑽し続ける生涯学習者としての基礎を身につける

生活援助の基礎 ● 生活援助の基礎は、人々の健康上の課題に対応するために必要な基礎的知識・技術を習得します。

生活援助の方法 ● 生活援助の方法は、年齢や生活環境の異なる人々に向けて健康の保持・増進に必要な能力、あるいは疾病や障害の程度に応じ看護を実践するために必要な知識・技術・態度を習得することを目的としています。

生活援助の実践 ● 生活援助の実践は、理論と実践を統合することによって、様々な健康レベルにある人々に個々のニーズに応じた看護の実践能力を習得することを目的としています。

看護の統合と実践 ● 看護の統合と実践は、看護学科の全教員が関わる看護総合演習や看護研究が含まれています。中でも学生が看護研究のプロセスを体験することは、看護実践者として、生涯学習者としての基礎を身につける上でとても重要と考えています。

■ 公衆衛生看護専門科目群

保健師課程を選択した人が履修をします。

詳細は検討中です。

1

年生

高校生から大学生になった皆さんは、まず導入教育として大学で学ぶために必要な学習方法など基本的なチューデントスキルについて学びます。医療基礎科目と教養教育科目群の授業は、1年を通して医学科生と一緒に演習やディスカッションを行いながら、物事を総合的・多面的に理解する能力、医療者に必要な倫理的知識・技術・態度を習得し、自分自身を客観的に理解する能力を学習します。看護専門基礎科目として、解剖生理学によって看護の対象である人間の身体面を深く理解していきます。そして看護専門科目として、看護学の基盤になる基礎看護学等が始まります。夏休み前の病院実習では、シャドーナースとしてベテランの看護師に付いて患者さんとの対応方法を体験します。

2

年生

2年生になると看護専門基礎科目、看護専門科目が増えます。病気のメカニズムと治療プロセスなどの疾病・治療学や薬理学、臨床栄養学等が始まります。これらの科目と並行して、子どもからお年よりまでの各ライフステージにいる人々、精神に病気を抱えた人々、在宅や施設で療養生活を送る人々、さらには妊産婦や地域住民など様々な健康レベルにある人々を理解するための対象論や方法論といった看護専門科目が始まります。科学的根拠に基づく思考と判断に基づいた問題解決思考としての看護過程の展開方法も学びます。また夏休み後の病院実習では、病気で入院している患者さんを受け持ち、はじめて看護を実施させていただきます。

3

年生

前期は各看護学の方法論が大半を占め、さまざまな角度から看護を考えます。後期からの臨地実習に備えて具体的な場面をシミュレーションしながら自分自身で看護を考える力を身につけられるような学内実習も多くなります。保健師課程選択者は、公衆衛生看護活動を展開するための地区診断や地域特性に応じた予防活動の方法等を学習します。また看護研究方法論の授業では、自分の研究テーマを考えて文献を調べるなど看護研究の基礎を学びます。後期からの臨地実習では、受け持ち患者さんの病状を含めた個別性や治療方針および看護方針を踏まえて学生が看護計画を立て、必要な援助を実践・評価するプロセスを体験します。自ら考え実践する体験を通して看護実践力を身につけていきます。大学の附属病院以外にも老人保健施設、精神病院、訪問看護ステーションなど様々な施設で実習を行います。

4

年生

3年生後期から引き続き実習を行い、実習のまとめとして学生の関心領域における総合実習を行います。また保健師課程選択者には、公衆衛生看護学実習があり、保健所や市町村の保健師から直接指導を受けながら、地域住民の健康・生活を守り、その質を高めていくための知識・技術を学びます。各看護学実習は前期で修了し、後期は家族看護論、緩和ケア論、災害看護論などの選択科目を用意しています。これらの科目はグループ演習や体験を組み入れるなど、より専門性の高い授業が行われます。看護研究では、教員の指導のもとで研究に取り組むことで、自己学習能力と研究的態度を身につけます。

基礎看護学

芳賀 佐和子・菊池 麻由美・羽入 千悦子
佐竹 澄子・青木 紀子

看護学概論・看護ケア論・看護過程
フィジカルアセスメント・生活過程援助論Ⅰ
生活過程援助論Ⅱ・症状マネージメント
生活過程援助実習Ⅰ・生活過程援助実習Ⅱ

「看護実践の根拠」や「フィジカルアセスメントの有効性」をテーマに研究している。看護技術のなかには経験的にはその効果は分っているが、科学的根拠の曖昧なものが多いという現状がある。またフィジカルアセスメントは比較的新しい技術で有効性に関し研究の蓄積が求められる分野となっている。さらに本学は日本で最初に近代的な看護教育を導入したという歴史を有しており、日本の看護史に大きな足跡を残している。そのため「看護の歴史」に関する研究も行なっている。その他、看護の基礎となる「患者の生活」「看護の対象者と看護師の関係」に焦点をあてた研究を行っている。

成人看護学

藤野 彰子・高島 尚美・瀬山 留加
若澤 弥生・野中 麻衣子・村田 洋章

成人看護学概論・周手術期看護方法論
急性期看護方法論・慢性期看護方法論
がん看護方法論・成人看護学実習Ⅰ

領域全体で臨床実習における教育効果について取り組み、「患者がとらえる看護実習」「看護学生が患者に与える影響について」「学生の自己評価から見た成人看護実習の到達目標の検討」「実習指導におけるカンファレンスの教育効果」「成人看護実習における看護技術到達度の分析」のテーマで学会等で発表している。
各教員の主たる研究は、クリティカルケア、手術を受けた患者の離床・QOL、がん看護、タッチング、化学療法とQOLなどがある。

老年看護学

櫻井 美代子・草地 潤子・百々 典子

老年看護学概論・老年看護対象論
老年看護方法論・老年看護学実習Ⅰ
老年看護学実習Ⅱ

- 心身に障害をもつ高齢者と家族介護者に対する心理学的アプローチについての質的研究
- 高齢者の座位姿勢を援助する技術
- 高齢者施設における他職種との連携での看護師の役割
- 医療者および学生の高齢者に対する認識に関する研究

精神看護学

川野 雅資・石川 純子・依田 香

精神看護学概論・精神看護方法論・精神看護学実習

- うつ病体験者の社会復帰に関する研究
- 日本とタイの地域精神医療に関する研究
- 児童青年期精神医療の社会資源とネットワークに関する研究
- 基礎教育と専門教育における精神科コミュニケーション技術に関する研究
- 看護面接場面による面接技術の構造に関する研究
- 精神障害者へのケアリング実践に関する研究

小児看護学

濱中 喜代・高橋 衣・荒川 まりえ

小児看護方法論Ⅰ・小児看護学方法論Ⅱ
小児期看護学実習・地域看護学実習Ⅰ

- 「病気をもって生活している子どもと家族の支援」をテーマに継続的に研究活動を行うとともに、他大学の教員との共同研究として「小児看護の現場で働き続けるための教育支援に関する研究」および「入院している子どもの教育支援のための教育と医療の連携に関する研究」について調査・研究し、成果を学会等で発表している。
- 「青年期における清潔感覚と清潔行動」「小児看護学の教育方法として、小児の発達段階をイメージできる効果的な学習方法」「小児の倫理に注目した小児看護学における看護倫理教育」について注目し、継続的に研究を行っている。
- 子どものEnd-of-Life Careに携わる看護師に焦点を当てた研究を行っている。

母性看護学

茅島 江子・細坂 泰子・抜田 博子

母性看護学概論・周産期看護方法論Ⅰ
周産期看護方法論Ⅱ・母性看護学実習

思春期から更年期まで、女性のライフサイクルの中で生じる様々な健康問題と看護に関する研究、妊娠・出産期にある女性への看護ケアの開発に関する研究など、様々な状況にある女性やその家族への援助について、幅広いテーマで研究を行っている。現在は、月経周期と女性の健康や意識との関連についての研究を行っている。

地域看護学

嶋澤 順子・高橋 郁子
久保 善子・笹井 靖子

地域看護学概論・地域看護対象論・地域看護技術論
地域看護活動論Ⅰ・地域看護活動論Ⅱ
地域看護管理論・地域看護学実習Ⅰ
地域看護学実習Ⅱ

- 精神障害者の地域生活支援における保健師の機能・役割に関する研究
- 生活習慣病予防における保健指導方法に関する研究
- 高齢者施設における感染予防対策の研究
- 在宅介護者への健康支援についての研究
- 産業保健師のメンタルヘルス対策におけるコンピテンシー研究
- 特定保健指導の質の管理システム導入研究
- 特定健診・特定保健指導における保健師のコンピテンシー研究

在宅看護学

北 素子・吉田 令子・遠山 寛子

在宅看護学概論・在宅看護援助論・在宅看護学実習

- 在宅看護に関わる様々なテーマの研究に取り組んでいる。
- 在宅における介護家族支援のout come指標開発
- 在宅でターミナルを迎えるがん患者への看護に関する研究として、家族の悲嘆および予期非嘆に関する研究
- e-ラーニングを活用した在宅ケア実習記録の効果についての研究
- 在宅で医療処置を行う家族への援助に関する研究
- 在宅領域における看護師の裁量権拡大に関する研究

健康科学 疾病治療学

伊藤 文之(小児科学)
穴澤 貞夫(外科学)

疾病治療学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ・小児看護学概論

- 創傷管理(外科手術創管理、難治性皮膚潰瘍褥瘡管理)に関する研究
- ストーマリハビリテーションに関する研究
- 排泄障害リハビリテーションに関する研究
- 外科術前・術後管理に関する研究
- 高齢者外科手術患者の管理に関する研究
- 障害者福祉機器工業標準化に関する研究
- 小児の緩和医療に関する研究
- 子育て支援に関する研究
- 成長ホルモン治療を行っている子どものQOLの変化についての研究